

審査会委員からの事前意見に対する事業者見解

No.	ページ	意見	事業者回答
1	3-3	アズマヒキガエルの環境保全措置ですが、実施場所と本来の生息確認位置との距離はいかほど離れていますでしょうか。位置関係を示された方が分かりやすいと考えます。	生息確認位置から約250m～650mの場所に位置します。今回の調査では確認されておりませんが、環境保全措置実施場所に隣接した樹林地に生息する個体が、設置した産卵地を利用しているのではないかと想定しております。環境保全措置実施場所は、着工前の現地調査時に確認された産卵場所から半径40m以内に設置しております。
2	3-44 ～ 3-57	①降雨時のみ工事個所でSSが上昇し、降雨後は目標値以下となったことから、工事の影響は小さい、とありますが、降雨時でも非工事場所（No1）のSSは上昇していなかったことから、やはり降雨の影響はあったものと思われます。多い時は300ppmを超えており（R4.5月、同日の非工事地点でのSSは10ppm程度）、一定量のSSが河川へ流出したと考えられます。降雨後の濃度は減少したことから、長期的な影響ではなかったと推察しますが、もし流量も計測されているのであれば、SS流出総量を算出し、下流域への影響の有無等を検証されるとよいと考えます。 ②また、R.4.12-R.5.3、R5.12-R6.1は工事期間中のようなのですが、SSが全く検出されていませんが、何故でしょうか。SSの流出がどの工事項目と関連があるのか抽出できたら次回以降の工事への参考知見となり得ると考えます。	①着工前の現地調査において、調査地点No.2及びNo.3のみ降雨時にSSが一時的に大きく上昇し、その後、時間経過とともにSSが減少する傾向が確認されております。今回の調査においても同様の傾向が確認されたことから、工事の影響は小さいと判断しました。また今回の調査では流量の計測は行っておりません。 ②工事区域内で発生した濁水は、工種に関係なく直接下流河川には流入せず、調整池で滞留後に下流河川へ流下します。冬季は降水量が少ないため、調整池から下流河川への流入が少なかったものと考えております。